平成２２年５月１１日

ガスこんろのグリルの誤使用等による火災事故の防止について（注意喚起）

ＮＩＴＥ製品安全センターに通知された製品事故情報のうち、「ガスこんろのグリル（以下、「グリル」という。）」による事故は、平成１６年度から２０年度の５年間に２４１件（※１）ありました。このうち、死亡事故が３件、重傷事故が３件、１室以上の火災が５１件あります。

ＮＩＴＥの調査結果（※２）によれば、事故原因が消費者の誤った取扱いや不注意による事故が２４１件中２０９件であり、９割近くを占めています。

２０９件について、使用者または被害者の年代別に見ると、年代が高くなるにつれて事故件数が増加し、６０代が最も多くなっています。使用者または被害者の性別では、６０代男性が最も多くなっています。

消費者にグリルによる事故の内容を理解していただき、グリルを正しく使用し、事故を防止することが必要であると考えられることから、注意喚起することにしました。

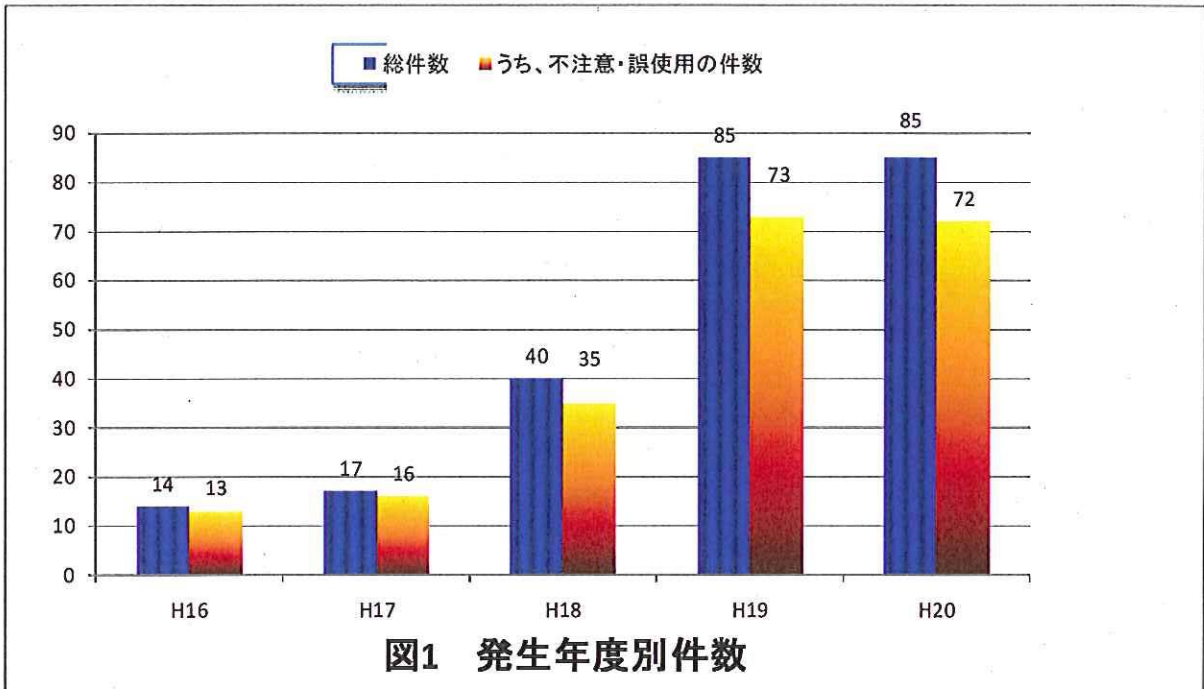
（※１）平成２２年３月３１日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

（※２）平成１９年度に改正された消費生活用製品安全法では、重大製品事故は国に報告され、経済産業大臣から、ＮＩＴＥに調査指示が行われることになっています。

１．グリルによる事故について

(1) 年度別・事故原因別の事故件数について

ＮＩＴＥ製品安全センターに通知された製品事故情報のうち、グリルによる事故は平成１６年度から２０年度の５年間に２４１件ありました。このうち、消費者の誤った取扱いや不注意によると思われるものが２０９件発生しており、これらを年度別にまとめると図１のとおりです。

図1　発生年度別件数

(2) グリルによる事故の現象別被害状況について

平成１６年度から２０年度に発生したグリルによる事故は２４１件あり、現象別に見ると、「魚の油脂などグリルの汚れに着火」１２４件（５１％）、「グリルの火を消し忘れて放置またはその場を離れたため火災」５６件（２３％）、「カセットこんろやカセットこんろのボンベをガスこんろの上に置いたためにグリル排気口の熱によって、カセットこんろのボンベが爆発したもの」７件（３％）、「誤ってグリルのスイッチを入れて放置したため火災」７件（３％）、「グリル受け皿に水を入れ忘れたため魚の油脂などの汚れに着火（※３）」７件（３％）、「グリルの周囲の可燃物に着火」４件（２％）などの火災事故が主でした。火災以外の事故には、「グリルを清掃中に指をけが」５件（２％）、「グリルの天板等の破損」４件（２％）などがありました。

（※３）グリル受け皿に水を入れなくてもよいものもあります。

表１　グリルによる事故の現象別被害状況
（平成１６年度から２０年度）（※４）

被害状況 ＼ 事故の現象（※５）	人的被害			物的被害		被害無し	合計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
魚の油脂などグリルの汚れに着火	2 (2) [2]	1 (1)	16 [11]	75 [29]	27	3	124 (3) [42]
グリルの火を消し忘れて放置またはその場を離れたため火災	0	0	14 [2]	39 [14]	3	0	56 [16]
カセットこんろやカセットこんろのボンベをガスこんろの上に置いたためにグリル排気口の熱によって、カセットこんろのボンベが爆発したもの	1 (1)	1 (1)	5	0	0	0	7 (2)
誤ってグリルのスイッチを入れて放置しため火災	0	1 (1)	1	2	3	0	7 (1)
グリル受け皿に水を入れ忘れたため魚の油脂などの汚れに着火	0	0	0	5 [2]	2	0	7 [2]
グリルの周囲の可燃物に着火	0	0	0	3 [3]	1	0	4 [3]
グリルを清掃中に指をけが	0	0	5	0	0	0	5
グリルの天板等の破損	0	0	1	0	3	0	4
その他	0	0	3	8 [1]	7	1	19 [1]
焼損が激しく調査不能	0	0	0	2	2	0	4
調査中	0	0	0	2	2		4
合　計	3 (3) [2]	3 (3)	45 [13]	136 [51]	50	4	241 (6) [64]

（※４）平成２２年３月３１日現在、重複、対象外情報を除いた件数。被害状況別で「死亡」、「重傷」、「軽傷」と同時に「拡大被害」や「製品破損」が発生している場合は、「拡大被害」や「製品破損」にはカウントせず。また、（ ）の数字は被害者の人数、[ ] の数字は１室以上の火災の件数。

（※５）グリルの火を消し忘れて放置したため、魚の油脂に引火した場合は、「魚の油脂などグリルの汚れ」にカウント。グリル受け皿に水を入れ忘れて、かつ、火を消し忘れて放置した場合は、「グリル受け皿に水を入れ忘れたため魚の油脂などの汚れに着火」にカウント。

(3) 使用者または被害者の年代との関係について

平成１６年度から２０年度に発生したグリルによる事故２４１件のうち、消費者の誤った取扱いや不注意によると思われる事故２０９件について、使用者または被害者の年代別に事故件数をとりまとめたものを図２に示します。また、グリルによる事故２０９件のうち、年代・性別が判明している１２１件について、使用者または被害者の年代別・性別の事故件数を図３、年代が判明している男性の事故８９件について、使用者または被害者が男性の場合の年代別・現象別の事故発生状況を図４に示します。

図２から使用者または被害者の年代が高くなるにつれて事故件数が増加し、６０代が最も多くなっています。

図３から使用者または被害者が男性の場合は、女性に比べて５０代から事故件数が増加し、６０代が最も多くなっています。５０代以上では、男性が約８割を占めています。

図４から使用者または被害者が男性の場合の事故８９件のうち、５０代以上で最も事故の多い現象は、「魚の油脂などグリルの汚れに着火」５０件（５６％）であり、次いで、「グリルの火を消し忘れて放置またはその場を離れたため火災」２０件（２２％）であり、この２つで約８割を占めています。

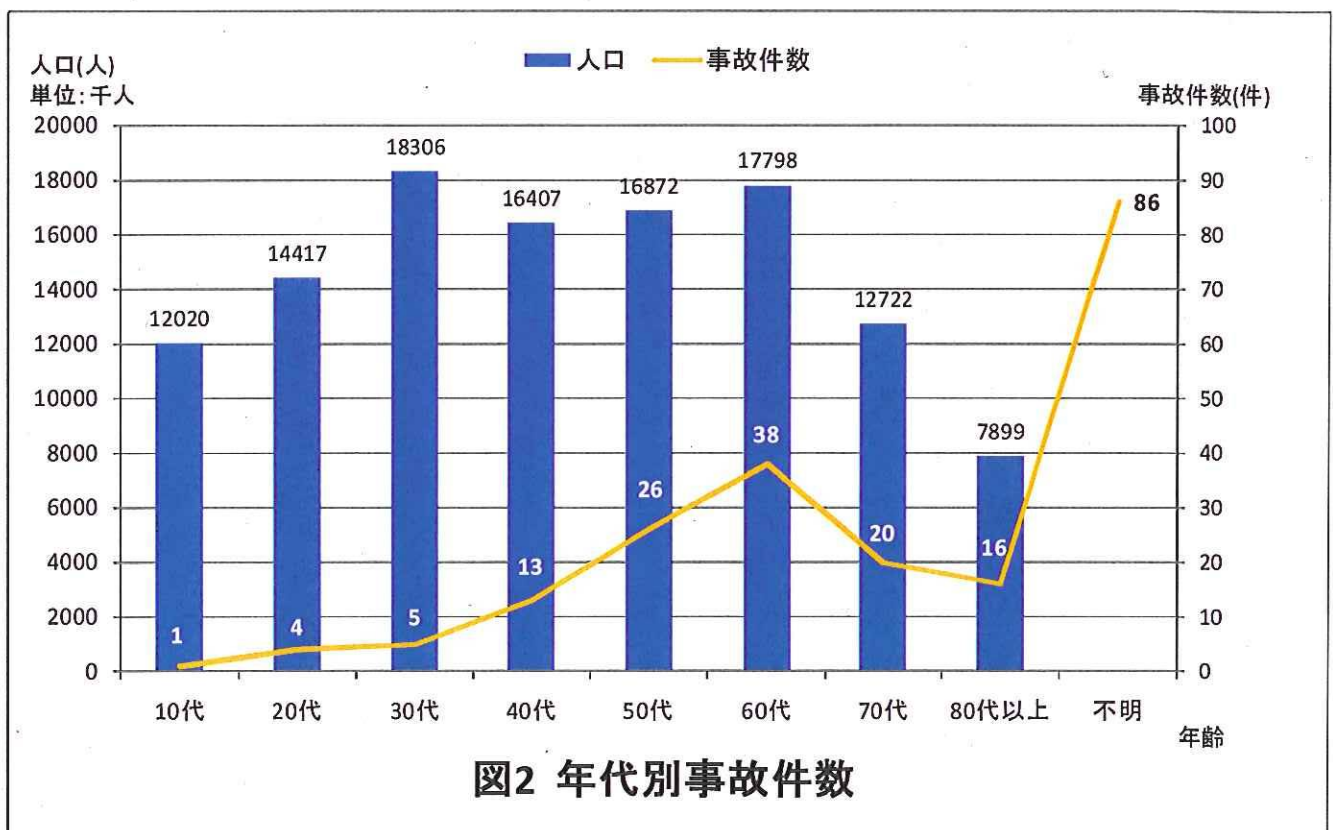



図2 年代別事故件数

人口のデータ出典：総務省統計局の人口推計（平成21年10月1日現在）「全国：年齢（各歳）、男女別人口 ・ 都道府県：年齢（5歳階級）、男女別人口」を年代別に集計。

■女性 ■男性

女性:32件
男性:89件
計:121件

件数(件)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
女性	0	3	1	5	7	6	6	4
男性	1	1	4	8	19	32	12	12

図3 年代別・性別事故件数

■火を消し忘れて放置またはその場を離れた ■魚の油などの汚れ
■誤ってグリルのスイッチを入れて放置 ■カセットこんろのボンベが爆発
■可燃物に着火 ■水の入れ忘れで魚の油が燃えた

件数(件)

合計:89件

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
火を消し忘れて放置またはその場を離れた			3	3	8	9	1	2
魚の油などの汚れ		1		4	11	21	10	8
誤ってグリルのスイッチを入れて放置						1		1
カセットこんろのボンベが爆発	1		1	1				
可燃物に着火							1	1
水の入れ忘れで魚の油が燃えた						1		

図4 使用者または被害者が男性の場合の年代別・現象別の事故発生状況

２．事故事例の概要について

グリルによる事故については、次の情報が報告されています。

① 平成２１年１月９日（福島県、６０代男性、軽傷）

（事故内容）

木造２階建て住宅から出火して、台所を焼き、顔などに軽いやけどを負った。

（事故原因）

ガスこんろのグリルで餅を焼いた後、消し忘れて放置したため、グリル受け皿等にたまっていた油脂等が過熱して発火し、火災に至ったものと推定される。

② 平成２０年１月１６日（富山県、６０代男性、火災）

（事故内容）

右側のガスこんろを使用して調理中にその場を離れたら、グリルから炎が上がっていた。

（事故原因）

グリルの火を誤って点火させ、その場を離れたため、グリル受け皿等にたまっていた油脂等が過熱して発火し、火災に至ったものと推定される。

③ 平成２０年１１月３０日（北海道、６０才代、女性、拡大被害）

（事故内容）

ガスこんろのグリルを使用中、排気口から出火し、壁の一部が焦げた。

（事故原因）

ガスこんろのグリル受け皿に水を入れないで使用したため、魚の油脂や受け皿に溜まっていた油等が過熱して発火し、グリル排気口から炎が出たものと推定される。

なお、取扱説明書には「グリルを使用するときは必ず受け皿に水を入れること。」との注意事項が記載されている。

３．グリルによる火災事故の防止について

グリル受け皿に付着した魚の油脂等の汚れが過熱し、発火する事故が多発しています。特に、５０代以上の方による事故が多発していますので、グリル受け皿を清潔にするなど、取扱説明書に従って、正しく使用してください。

(1) グリル使用後は、必ず洗って日頃からきれいにしてください。付着した魚の油脂等が過熱し、発火することがあります。
(2) 調理中は、その場を離れないでください。
(3) 調理後にその場を離れるときは、グリルが消火していることを確認してください。グリルの炎は見えにくいので、気づかないことがあります。
(4) グリル受け皿に水が必要なグリルは、必ず水を入れてください。
(5) ガスこんろの上にカセットこんろを置かないでください。また、スプレー缶、ふきんなどの可燃物を置かないでください。

以　上